

日本仏教の源流・中国仏教典籍を網羅した一大叢書『統蔵経』。
その新纂にあたって主任を務めた著者による解題抄。

統蔵経解題

『統蔵経』の最良の手引書、ついに刊行なる！
尽きせぬ研究素材の宝庫たる

河村孝照 [編著]

国書刊行会

2023年
12月
刊行

本書の特徴

- ◇日本仏教の源流・中国仏教典籍を網羅した一大叢書『統蔵経』。その新纂にあたり編纂主任を務めた著者が、全1671経典中、330経典について解題を付した、『統蔵経』研究の最良の手引書。
- ◇『新纂大日本統蔵経』に収録した新発見の経典である、唐・浄眼『因明入正理論略抄』『因明入正理論後疏』の解題も収録。
- ◇各経典には、『大正新脩大蔵経』『卍統蔵経』『新纂大日本統蔵経』『台湾本卍統蔵経 (CBETA)』の識別記号を記載。また各教典の著者と著作年代についても特記した。
- ◇読者の便に供するため、「本書収録経典の『新纂大日本統蔵経』配列順索引」と「五十音順経典名索引」を収録した。



『統蔵経解題』

B5判／上製・クロス装・函入
497頁
定価：本体 22,000円＋税
ISBN978-4-336-07604-5

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427
<https://www.kokusho.co.jp> e-mail:info@kokusho.co.jp

目次

- 『統蔵解題』【一】隋・吉蔵『華嚴遊意』、唐・宗密『円覚経略疏鈔』ほか
- 『統蔵解題』【二】南宋・観『円覚経鈔弁疑誤』、宋・子璿『楞嚴経義疏注経科』ほか
- 『統蔵解題』【三】宋・子璿『楞嚴経義疏注経』、隋・吉蔵『法華統略』ほか
- 『統蔵解題』【四】唐・浄眼『因明入正理論略抄 (新出資料)』、唐・智度『法華経疏義續』ほか
- 『統蔵解題』【五】唐・大乘基『金剛経贊述』、不明『涅槃経会疏条箇』ほか
- 『統蔵解題』【六】隋・慧遠『無量寿経義疏』、清・存吾『金剛経闡説』ほか
- 『統蔵解題』【七】清・徐槐廷『金剛経解義』、南宋・性澄『阿弥陀経句解』ほか
- 『統蔵解題』【八】唐・慧浄『般若心経疏』、明・智旭要解、清・達默造鈔『阿弥陀経要解便蒙鈔』ほか
- 『統蔵解題』【九】清・統法『阿弥陀経略註』、宋・徳洪造論、宋・正受会合『楞嚴経合論』ほか
- 『統蔵解題』【一〇】明・真鑑『楞嚴経正脉疏科』、明・陸西星『楞嚴経述旨』ほか
- 『統蔵解題』【一一】明・伝如『楞嚴経截流』、明・智旭『法華経会義』ほか
- 『統蔵解題』【一二】明・真界『楞嚴経纂註』、唐・智嚴『楞伽経註』 (一部不完) ほか
- 『統蔵解題』【一三】不明『楞伽経疏』 (不完)、隋・智顓『維摩経文疏』ほか

索引一 本書収録経典の『新纂大日本統蔵経』配列順索引
索引二 五十音順経典名索引

『新纂大日本統蔵経』について

『新纂大日本統蔵経』全90巻の旧版『大日本統蔵経』(蔵経書院刊)は、1905～12年(明治38～大正元)刊行。1902年～05年(明治35～38)に刊行された『卍字蔵経』(『大日本校訂訓点大蔵経』の通称)の続編であるため『卍統蔵経』『統蔵』とも略称される。
『大日本統蔵経』には、『大正新脩大蔵経』に未収録の中国撰述書が収録される。華嚴・天台・真言・浄土・法相・律・禪など各宗の重要典籍をはじめ、他の大蔵経に未収録の貴重文献、新発見の経典、各宗の碩学・名僧の著作・語録を豊富に収録した最後の本格的な大蔵経である。
新纂に際しては、旧版を全面的に整備。現代の学問研究に不可欠な①典籍番号、②体裁の変更を施し、③欠巻典籍の補充、④新出資料の収録を行ない、⑤総目録・総索引を付した。

取扱店

申込書

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

『統蔵経解題』を _____ 冊注文します

お名前

ご住所

お電話

私は今年（令和五年）五月に百寿を迎え、六月に大腿骨を骨折して救急車で病院に運ばれた。二カ月余の入院・リハビリ生活を終えて八月末に帰宅すると、退院を祝うかのように、本書の出版決定の朗報が届いた。嬉しい限りである。

そこで『新纂大日本統蔵経』の新纂事業の概略と、本書の元となった小冊子『続蔵解題』（一）～（三）の執筆事情について略記する。

周知のように、旧版『正統蔵経』（蔵経書院版）の最大の泣き所は、学術論文等の典拠として表記する際にややこしい記述を余儀なくされたことであった。『正統蔵経』は全体が二編に大別され、各套に二段組の和装本五冊が入る体裁であった。該当頁を示すには、「正統・一・一八・五・三四丁・表・上」などと表記し、これで、「正統蔵経、第一篇、第一八套、第五冊、第三四丁、表頁、上段」を意味したのである。これでは学術研究論文に引用するにしても、索引等を作るにしても、その表記に難渋せざるを得なかったのである。その仕様を『大正蔵経』の形式に整える必要があった。

そこで『新纂大日本統蔵経』（国書刊行会発行）では洋装本・B5判・三段組に改め、該当頁を、「続蔵⑧二五九a（続蔵経第八巻、二五九頁、上段）」と簡潔明瞭に表示できるように新編纂した。

さらに、新発見の經典（唐・浄眼『因明入正理論略抄』『因明入正理論後疏』）の増補や新機軸を工夫し、昭和四八年（一九七三）から平成元年（一九八九）まで、一六年をかけて全九〇巻が完結した。

私は新纂作業の主任として、新編纂に当たり各資料の序・跋・刊記・識語等に注目して、各資料の性格を把握するの便を得ていた。序・跋を読み進むと実に面白い。教義の集約もあれば人物伝もあり、歴史の紹介もあり、執筆の動機もあり、読んでいて飽きない。その面白さを、序文にそいながら紹介できないかと考えたのが本書の出発点である。

こうして私は『続蔵解題』と題して、『新纂大日本統蔵経』の編纂を開始し

て一〇年目の昭和五八年（一九八三）に第一冊目を自费制作し、関係者に配布した。幸い好評を得ることができ、あたたかい激励の声を受けた。それに鼓舞されて『新纂大日本統蔵経』完結九年後の平成九年（一九九七）までに、計一三冊を発行した。本書は、『続蔵経解題』と題してその一三冊を一書にまとめ、読者の便に供するため配列順、經典名の五十音順索引を新たに付したものである。このたび、私の悲願の一つであった『続蔵経解題』が国書刊行会から出版される機会を得たことに、感謝するとともに肩の荷の一つを下すことが出来たような深い感慨を覚える。

ただし、ここで付言しておかなければならないのは、本書はひとえに『続蔵経解題』一三冊の小冊子の散佚を防ぐために一書にまとめたもので、『新纂大日本統蔵経』全一六七二經典中の、主要經典など三三〇經典の解題であり、『新纂大日本統蔵経』の全解題ではないことである。『続蔵経』という宝の山にはまだまだ多くの金鉱脈がある。たとえば続蔵経中の人物伝を拾って頂ければ僧伝・仏教史ともなり、宋代以降の資料が蒐集されているのであるから、充分研究に堪えうらと思う。中国仏教、および中国仏教史に手を染められる方は、ぜひ続蔵経の序・跋資料を使っていただきたいし、若き研究者はぜひ研究の金鉱脈を掘り出してそれを世に紹介していただきたいと切に願う。そしていつか若き研究者が続蔵経の全解題を完成させることも望んでいる。本書がそういった『続蔵経』のあまねく研究の手引書の一つとなれば幸いである。

編著者略歴

河村孝照（かわむら・こうしょう）

一九二四年（大正一三）生まれ。東洋大学教授、顕本法華宗総本山妙満寺加藤三〇六世貫首を歴任。日本伝統文化研究所所長。文学博士。

索引一 本書収録經典の『新纂大日本統蔵経』配列順索引

Table listing book titles and their corresponding volumes in the new edition. Columns include title (e.g., 華嚴經疏論), volume number, and page reference.

(索引一)

索引二 五十音順經典名索引

Table listing the 50-syllable sorted index of classic names. Columns include the name (e.g., 華嚴經), volume reference, and page reference.

(索引二)